西高のベテラン連は語る

座談会　思い出はつきる事なし

本校が現校舎に移ってきたのは昭和五年四月、そしてその月創立十周年記念式典を挙行して図書館を竣工した。（改築前の図書館）、三校リーグ、市内高校体育祭、野球部甲子園出場、かりそめの南校との統合とき経つとともに歴史は流れ、今では語り草としかなっていないような話題も当時はビッグニュースだったに違いない。そこで今回本誌は創立四十周年を記念し、ベテラン先生にお集まり願い座談会を開いた。

▽出席者……
颯田　毅
平井　巌
江良　貞夫
藤尾　吉朗
山田　正俊

盛んだった三校（関中・下商・豊中）リーグ
男女共学　強行の〃女七人組〃

司会　お忙しい所、お集り下さいまして有難うございます。本日御出席の先生方はいづれも高校教育界におけるところの「ベテラン」の方ばかりであり、特に我が西高の教育には半生を捧げてこられた我々が感謝し誇りにすべき先生方であります。先づ先生方はいつ頃本校に来られたのでしょうか。

颯田先生

颯田　私は昭和十七年二月十七日ですから、丸十七年と半です。

江良　私は昭和二十一年九月三十日でした。

山田　私は昨年の四月ですから今、司会者がいわれたような高校教育界のベテランなどとは縁遠い存在です。従って出来るだけ私が感じた事を話させてもらいます。

藤尾　私は昭和二十一年の十一月に本校に参りました。

平井　私が来ましたのは昭和十七年九月三十日の発令で十月三日だったと思います。

司会　だいぶ前の話になりますが豊浦中（現豊浦高校）と下関商業と本校との間に三校リーグが行われていたそうですがその当時の思い出話や、とっておきの話などをお話し願えないでしょうか。

江良　私は関中在学二年の時から大正十二年に始まって、本校（関中時代）下商、豊浦の三校で、柔道、剣道、野球、庭球、陸上競技の五つについて技を競ったわけです。始めは下商、豊中が優勝していましたが、私が三、四、五年の時に三回連続して本校が優勝しました。現在も本校にその時の優勝カップや優勝旗が保管してあります。思い出はつきませんね。本校は剣道は問題なく勝っていて、庭球もだいたいよく、柔道も強かったのですよ。しかし野球は当時も現在と同じく連敗でした。その時は陸上競技と庭球で勝てば総合優勝をしていました。

又応援の為、本校では全生徒が夜の六時七時まで残って上級生に殴られながら無理やり練習させられていましたね。昭和四年（三回連続優勝の最後の年）弓道、柔道、剣道、陸上競技に優勝しました。野球はやはり最下位でしたがね。

司会　その当時から江良先生は野球をやっておられたのですか。

江良　そうです。私が下手な野球をやっていたのは、この頃からですが、三年生になった時は四年生の部員が一人、三年生が二人、二年生が一人で、五年の時はレギュラーとして五年生七人、四年一人で三年は今早鞆高のコーチをやっている塚本さんだけだったですね。

司会　颯田先生がおられた頃は、野球部は強かったのですか。

颯田　私の来た頃もやはり弱かったですよ。全戦全敗でしたね。剣道部は先輩から受けついで伝統的に強かったですね。昔は正課に武道というのがあって体の強い者は剣道、柔道、弱い者は弓道をしていましたからね。弓道の「あづち」は土手の所にありました。一般に球技は昔は弱かったのですが、新制高校になってからバレー、バスケットが我然強くなったようです。庭球は八木先生が来られてから強くなって福岡や名古屋に連続出場するようになったのです。

平井先生

司会　ではそういう三校リーグ戦が中止になったのは一体どういういきさつからなのですか。

江良　これが中止になったのは、昭和四年で、本校の生徒が審判をしておられた下商の先輩の方とジャッチの問題で殴り合いをしてからで続行出来なくなってしまったのです。豊中とは比較的仲がよかったのですがね。

司会　結局下商とのケンカ別れで自然消滅になったのですか。

江良　ええそうです。

○……南高との分離の理由……○

司会　これも又別れ話ですけれど現在我々の注目の的といいますか或いは憧れの的とでもいいますかお向いの下関南高（旧関女）と本校とが分離した時のいきさつや原因についていかがでしょうか。

―一同ざわつく―

颯田　統合する時のいきさつですが、進駐軍の方から「できるだけ統合せよ」と半ば強制的にいわれましてね。それで西高は西高で南高は南高でPTAの総会を開いたわけです。西高の方はよかったのです。しかし一部では統合したら男子の学力が低下するから困るという意見もあり西高生徒会は全員賛成だが統合した時「僕は南校にはゆかない」というような気持だったようです。南高のPTAは大反対でした。それで話合いを再三やりまして、どうにか統合しました。その時南校から注文がでて成績優秀でおとなしい者を寄こしてくれという条件です。その当時は「やんちゃ」が相当いたので、結局物理を選択した三年生を連れていったのですよ。

しかし統合してから生徒の数が多くて困りました。あまりに多いんで顔がせいぜい六百名位しか覚えられなかったのです。

写真をもって帰って名前と写真をあわせたりして覚えてました。

司会　そのころ合計して何人位いたのですか。

颯田　千八百人から千九百人位だったでしょうね。

司会　それでは南北と校舎が別れてから学力の低下という事が見られましたか。

颯田　ほとんど認められませんでしたね。県下の状勢がそういう傾向に向っていたんですね。――

一同小言でささやく。「別れるというので泣きの涙だったよ」という声、つづいて、笑声が起る。

司会　分離の際、男子の生徒の態度は消極的で女子の生徒は絶対反対を叫んで積極的だったと、よく先生達はいわれるのですが、その事についていかがでしょうか。

平井　分かれても共学すると云うのでしょう。

司会　ええ、分かれても共学したいという態度の者が多かったのじゃないのでしょうか？

平井　最後迄がん張ったのは少なかったですよ、別れても共学したいといったのが例の七人組ですから。

司会　七人組とは何ですか。

平井　そう、あの時は一番始め反対者が四十名位いましたかね。

南北が分離した時、女子の七人がぜひ男女共学をしたい。しかもそれは北校舎の方へ行ってしたいといって、とても強行だったわけです。父兄の方も強行でして、校長が戸別に懇談されて、父兄の熱意に動かされて、共学を認めないという事はないのだからといってその七人だけがこちらの校舎に入ってきたわけです。男子の方で南校舎に行って共学をしたいという者がわずか一人だったので本人の方から「一人では」といってやめましたがね。

司会　それから完全に男と女を分離したという形になったのじゃないのですか。

一同　いやそうじゃないでしょう。

司会　現在もやはり女生徒は各学年大体七人のようですね。

一同　偶然の一致ですね―笑―

藤尾　まあ七人位が限度のようですね。

司会　その先輩の方達は相当頼もしかった様ですね。

藤尾　結局、県の方針で北校舎には家庭課の施設をつくらないということで分離したのです。

山田　西校は全然共学ができないという事はないのですか。

一同　そうじゃないよ。入ってくれば何人でも……。

颯田　この問題も難かしいですね。あまり女子を入れると男子の門がせまくなると困るので中学校側から紹介、コントロールしているそうですね。

山田　それでは南校には男子は入れないのですか。

一同　そんな事はないですね。

藤尾先生

球史を飾る◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 甲子園への出場

司会　それではただ別れたというだけなのですね。

それで一応西高と南高とが分離したいきさつはわかりましたがその他特に注目すべき思い出話はありませんでしょうか。

江良　今こそ野球は弱いんですけれどもなんといっても思い出すのは甲子園出場でしょう。私がまいりました頃、野球道具がなくそのころバット二本、ボール二個という貧しさでした。それで一部の熱心な方が後援会を作って下さって用具をやっとそろえたのです。それで生徒のほうもやる気になって多い時は四十名位もいたでしょう。その時は相当強くて、二次予選に出れる位だったのですが、安岡工業とやった時相手のS君に三塁打をみまわされて夢は破れました。それから後、結果的には甲子園に行ったのですがまさか甲子園に行こうとは思わなかったですね。今の野球と違って、何といっても大柄だったです。ランナーが出れば必ずヒットを打つといった具合でして、又橋本君という名投手もいましたしね。

部長さんは土居先生でして、副部長は中沢先生（現体育教科担当中沢先生のお兄さん）と私だったのです。実際には中沢先生が大いに活躍されましたが。

防府で決勝、二次戦があった時（一回戦広島基町高〇―六で勝、二回戦柳井高〇―七で勝）応援の費用がたいへんでした。決勝戦は下関商業や観音高をシャットアウトした尾道西高でして、まさか尾道に勝てるとは思わなかったですね。その時の対戦成績は一―〇で勝ちました。結局チームワークがとれていたという事でしょう。又西高は固くなるという事がなくて「ここまで来れば負けて悔なし」と言う気持があったのかも知れませんがね「五回を過ぎる迄、両校大田垣―橋本投手の好投とバックの好守もあって試合は淡々と進み六回、六番Nの四球出塁の後、九番Aの右翼への一打が右翼手が前進する間を縫ってライン寄りの三塁打となり、N還って貴重なる一点をあげた。リードされる尾道も九回の裏となり必死の攻撃は一番打者中前安打、二番打者右前安打と続き走者一、二塁当然バントが考えられる。ここでバントを成功させて走者を二、三塁に進めると逆転という嫌な予感が頭の中を走ったが、三番Kのバントは球速に押されて投飛となり、四番Kの打球は三塁真正面に飛び、三塁・二塁・一塁と転送され併殺、あっけない幕切れとなった。試合終了」（高四回・保良英夫氏参考）というような調子で勝ったのです。

江良先生

それから甲子園出場が決まり、用意をしてなかったので、寄附のため先生方が総動員され、浪花節をやったりして費用を集めました。一回戦城崎（大分県）と組み〇―四で勝ちまして、二回戦熊谷（埼玉県）と組みました。この時、一回戦で勝ったので「この調子なら」というのと批評が七分三分でしたので、大丈夫と思っていたのです。ところが六回に四点入れられて結局四―〇であっけなく敗けてしまいました。その時、応援に行くのに汽車一両をとって行き、うちわで応援していたのですが、どこでやっていたかわかりませんでした。何といってもその時は感慨無量でしたね。（当時を思い出すように）

司会　先生は現在野球部の部長をやっておられますが先生から見た将来性などはどうでしょうか。

江良　将来性等というよりも、西高生自身の考え方だけにありますね。甲子園に行ったというような野球部ですから、つぶしてはならないとは思いますが、現実はそうあまくはありません。

三校リーグのカップ

○●○●三校リーグとは大正十四年から続いたが喧嘩別れで自然消滅となった。このカップは当時の総合優勝チームにおくられたものであるが、現在西高の所有物となっている。

西高全種目に優勝
市内体育祭復活して

司会　西高の球史に残る、甲子園出場という輝かしい先輩の記録ですね。それではその他ありませんでしょうか。

藤尾　三校リーグのカップですが終戦後、共学になってから、市内の体育大会が復活し、西高がほとんど全種目に優勝しましたが〔第一回〕たまたま優勝旗がなかったので同窓会に借りていました。

今度それが出来ましたので返しましたがその頃総合優勝は西高がほとんど取っていました。しかし、野球部はその中に入っていなかったのですがね。参加校には下商、豊浦、早鞆、安岡、それに西市も入っていた様です。バスケットは国体に行ったことはなかったのですが、全日本にはよく行き二回優勝しました。しかし、運悪く国体予選でいつも敗れていました。バレーは二年続けて行きましたね。とにかく、そのころの学生にはもっとファイトがあった様ですね。勉強に対しての意欲が少ないですね。これは下田先生の話しですが共学時代には名差しをして「わからない」と返事をした者が一人もないが、分離してからあてられると返事をする前に「わからない」といっている、とまあこれは誇張ですが。

○……先輩はよく勉強した……○

司会　〃騎士道精神〃とでも申しますか…。ところで「ファイト」ですが、現在このように分離しているわけですが、先生方の立場から見て、結果的には分離したことをどう考えられますか。

（簡単にいえないでしょうね）という声。

藤尾　校長の立場としてはわずらわしいことがなくなって、すっきりしてよいと思うでしょうがね。我々はうるおいがなくなったといいますが。

江良　ただ結果的に成績がよくなるかと思っていたが、逆ときへいわれそうですね。

平井　昭和二十七・八年頃の生徒は真剣に勉強していましたよ。冬に進適があったので、十月頃に神経衰弱になる者があって大学を受けようか、受けまいかと思っていた位でした。ここ最近は入学試験に真剣にとっくもうとする者が少ないですね。一つは社会状勢として浪人がふえたことによるでしょうが…。あれやこれやと総合的に判断して、結論は出ないのじゃないかな。しかし、確かにファイトはなくなっていますね。

江良　私等は朝課外をやった時先生が遅れても全部問題をやっていたですね。六人か七人位でも。

司会　我々には耳が痛いようなお話しですが、その他先輩の逸話などありましたらお願いします。

以前は、はかまをはき着物を着、たしか白線が入っていたと思いますが、それで通学をしていました。私が関中に入った時、校舎はこちらに移っていましたが、先輩というと恐ろしかったですね。四五年が入学試験のため「隠眼（しか）」でいなくなった時には二年は三年が恐ろしかった、というような調子でした。しかし先輩というと今と違ってこわかったがあたたかかった、というか人間味があったですね。「がり勉」でなかったですね。

颯田　「ガリ勉」は成績が多少上がり始めてから特に強くなったようです。

国粋主義の犠牲！
非情究まる学徒動員

颯田　勉強の意欲については勉強のできない状態にありました―空襲下では、朝、一部は工機部や三井製錬や（これには平井先生が行かれた）、この隣りの東洋高圧や消防署や大和町の埋立工事や山陰線の汽車通の者は各駅の車掌をやったりしていました。それらの生徒は合間を見ては学校に来たり、昼食時に工場で勉強したりしていました。消防署と埋立工事の者は出勤時間がおそいので、朝やってきて勉強していたのですが、朝五時半に学校に集まるので、私が遅いと家が学校の近くなので呼びに来たりして、かえってこちらの方が、ひっぱりまわされてました。

司会　学徒動員についてその他

颯田　先生方は皆、ほとんど学校に残っていなかったようですね。上級生から先に出まして、一、二年は残っていました。しかし終戦近くになると一、二年も動員され、小串から金比羅の海岸に沿って陣地の構築を作ったり、消防署などをまわって歩きました。空襲警報が鳴っても退避する所（退避壕）がないので林や竹の中にのがれたりしました。その時穴をほったり、抗木を運んだり直径三十センチメートル、長さ三メートルの丸太をかついで防空壕まで運んだり、重労働でしたね。又消防に行っている連中も若いので火事に対する経験もありませんが、非常に洒脱していて、大津屋という所が火事の時、本職の消防夫は寄りつけない状態の時、本校の生徒でN君が火の中をくぐってホースをつかんで放水をしましてね。その時、彼は顔にけがをした様ですが、勇敢だったですね。

司会　当時、直接戦争による生徒の負傷者はなかったのですか。

颯田　敵弾（機銃）によるけがはなかったのですが空襲の際家にいて、けがをした者が数名いました。又表にいて高射砲の破片による負傷者も数名いたのですが、それらに対しての補償はぜんぜんなく、けがをした者はけがをしばなっしというわけだったですね。

教育の本質は人格陶冶
友情と団結心が必要

司会　では最後に、西高生に対する御要望を総合してお願いします。

颯田　私はもう少しお互同士、友情を持っていただきたいと思います。下商の生徒から本校の生徒がなぐられたら、その当時の生徒ならしかえしをしていたが、今の生徒なら、人がなぐられているのだからと言ってだまっているのではないかな。但し、けんかを奨励するのではないのですよ。ただもっと友情をもって団結してもらいたいのです。勉強の面については、本校の中位の成績で『九大』に入れますという程度に頑張ってもらいたいという事です。

平井　前にも話しましたがすべてに熱意がたりないですね。私が来た時、ある生徒等が課外にでて前に席をとり頑張って聞いているのでこちらもうかつに講義はできないぞと牽制されるわけですが、最近そういう優秀な子が課外に出ないようですね。生徒諸君の方にとっても結局マイナスになるのではないかと思いますね。又授業においても真剣な態度で勉強して、先生から何かつかもうとすると、先生の方にも熱を入れて授業をして下さると思いますがね。そういう熱意が欠けていると思いますね

江良　私は颯田先生が言っておられることに同感です。それと同時に非の打ちどころのないほど理論的ですね。自分の理論にすこしでもあわなければおかしいというのでしょうか……もう一歩進んでその人の立場になってみるということも必要じゃないかと思うのですが、とにかく各人があたたかい目で見るということです。

藤尾　今のように試験地獄では大変だと思いますが、屋休みの時間には全員運動場で何かスポーツをやっているということが望ましいですね。『もう用具はないか』というような所までやってほしいですね。現在五十％位はやっているようですが、できるだけ毎日、少しづつ運動するというような習慣をとってもらいたいですね。

山田　私はほとんど終戦後の教育をうけていますから、戦前のこと比較するわけにはいきませんが、私が感じ、又他の先生方からもうけとれることですが、勉強やその他に対して熱意が足りないと思います。それは他の学校とではなく、以前の西高にくらべてですよ。それから勉強については他の学校よりすぐれているかもしれませんが、すべてのことについての熱意というか、『これをしよう』という『ガムシャラな気持』が欠けていると思います。ですからそれに対して自分がおもいきった行動をしてもらいたいと思います。

山田先生

一日一度必ずパン食

西高すぐ下
みなと屋
下関市後田町

志るこ
ぜんざい
コーヒー
お茶漬
釜めし
唐戸銀天街の新名所
御家族連れで楽しめる皆様の店
やぎ
TEL ②0424

DIA
bag
かばんのダイヤ
唐戸銀天街

大学受験・就職試験 参考書
御買求めは……
あらゆる出版社を集めた当店へ!!
特設陳列して御覧なり易くしてあります
集文堂書店
細江町（入江口電停前）
電②1783